



プレスリリース

「シャンパーニュの丘陵、メゾンとカーヴ」 ユネスコ世界遺産一覧表に登録

7月5日、ボン国際会議場センターにて、ユネスコ世界遺産委員会は、「シャンパーニュの丘陵、メゾンとカーヴ」を世界遺産一覧表に登録することを決定しました。これは歴史的決定です。

ドイツ、ボンにおいて、ユネスコ世界遺産条約加盟国を代表する21の国と地域の代表者は、全員一致で、「シャンパーニュの丘陵、メゾンとカーヴ」の「進化を遂げる生きた文化的景観」のカテゴリーにおける世界遺産一覧表登録を決めました。委員会メンバーは、登録申請資産の顕著な普遍的価値を認めると同時に、その保護管理体制が万全であると判断しました。

フランスのユネスコ代表、文化省・環境省の代表、シャンパーニュの代表にとって、感動の一瞬です。「大きな満足感、この喜びを皆で分かち合いたい。今、この申請に尽力された方々、この途轍もないプロジェクトに支援を惜しかなかった関係者の方々、そしてシャンパーニュ地方のすべての人々に思いを馳せています。そう、私たちの郷土が、世界に認められたのです。世界遺産登録は、評価を受けた証しでもあり、各国の見守る中での責任表明でもあります。私たちはその責任を果たさなければなりません。この景観、その高い技術と遺産。私たちにはこれらを保護し、保全し、次の世代に無傷のまま残していく義務があります。そうです、それは歴史に名を残し、私たちの歴史に刻まれたのです。」と、8年に渡り、登録への立候補を計画し指揮したシャンパーニュ景観協会会長、ピエール・シュヴァルがその喜びを語りました。

「シャンパーニュの丘陵、メゾンとカーヴ」群は、他のワイン生産地で見られない風景を作り上げています。地域の組織作り、人々の功績、18世紀末以降普及し、現在に続く独自の生産、醸造、販売手法といったものが、地域の市街地や田園風景に深く根付き、世界的に名の知られた華やかなシーンやお祝いのシーンを象徴するワインを生んだのです。歴史、文化や高い技術を象徴する、他にはない景観と場所。それが今日「シャンパーニュの丘陵、メゾンとカーヴ」の顕著な普遍的価値を形作っています。

このたびのユネスコ世界遺産一覧表登録で評価されたのは、この地方にシャンパーニュワインを生んだブドウ栽培・ワイン製造の文化的景観の顕著な普遍的価値です。

そして、広くは、フランス国内の5県（マルヌ、オーブ、エーヌ、オート・マルヌ、セーヌ・エ・マルヌ）にまたがる、AOCシャンパーニュの地域にある320の市町村で受け継がれ守られてきたシャンパーニュワインの生産、製造、流通の営み全体が評価されたことに他なりません。

写真、発表、報道資料は次のサイトからご覧いただけます。<http://paysagesduchampagne.fr/>



#ChampagneUnesco

報道関係者様窓口：ALQUIER Press Office - Tel :+33 (0) 3 20 206 270 写真提供：Michel Jolyot et Puget/Amarante-photogalerie

Rachel Riant (ラシャル・リアン) - +33 (0) 6 85 12 40 14 - r.riant@a-po.fr /

Dorothee VILLEZ (ドロテ・ヴィエ) - +33 (0) 6 68 46 37 24 - d.villez@a-po.fr